

津波地域の特徵知ろう

津 大震災経験者が防災講座

東日本大震災で津波に遭遇した宮城県石巻市の元小学校教諭徳水博志さん(六三)が経験や教訓を伝える防災講座が十四日、津市江戸橋の北立誠小学校であった。海や川が近く、震災発生時に津波被害が予想される江戸橋地区周辺に住む市民ら百四十人余りが、非常時の命の守り方について学んだ。

(橘 董)

東日本大震災の発生時、石巻市雄勝小に務めていた徳水さんは、雄勝湾に一六メートルを超える津波が押し寄せる中、子どもたちの命を地域からの助言で守れた経験に基づき、現在は一般社団法人「雄勝花物語」で防災教育に関わっている。

徳水さんによると、雄勝小では震災時、最初は体育館に避難するよう指示を出したが、保護者の強い要望で山へ避難。その五分後に津波が同小を襲ったという。徳水さんは「地域の方に間違いを正してもらえた。地域ぐるみで防災を進めることが重要」と話した。



津波の経験から学んだ教訓を語る徳水さん＝津市江戸橋の北立誠小で

津波は地形によって変化し、気象庁の発表する予想を超える高さになりうることも強調。「自分の地域を知り、江戸橋地区の地形は予想以上に高い津波に襲われる危険性が高いと警告した。

参加した同市上浜町

の高橋紀昭さん(七三)は「津波の恐ろしさを改めて知り、勉強になった。学んだことを周りの人々にも伝えていきたい」と述べた。

講座に先立って、徳水さんが四一六年生二百三十人を相手に、津波の知識などを分かりやすく伝えた。